

新 地場企業 群像

中国経済

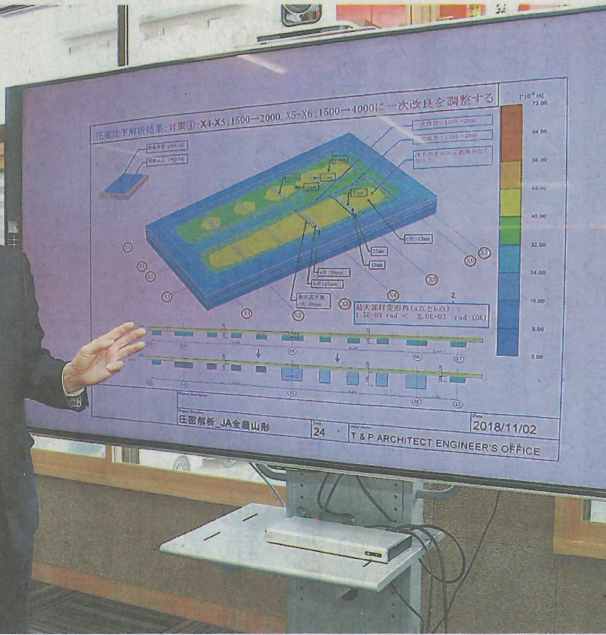
タケウチ建設 (三原市)

地震から守る独自工法

「TNF工法」と名付けた独自の耐震工法を用い、建物の基礎工事を専門に請け負う。平たい板状の基礎で建物を支える工法で、地中にくいを打たないのが特徴。地下の揺れが伝わりにくく、施工コストも抑えられる。アパートや倉庫、商業施設を中心に、北海道から沖縄まで全国約1300カ所で行われている。

TNFは「優しい格子状の基礎」の意。くいを地中深くまで打ち込む工法に比べて資材や費用が抑えられ、地下水や埋設物への影響も少ない。「格子状の基

礎」は土に固化剤を混ぜ、ワッフルのような形に造る。建物の荷重を分散して受け止めるため、軟弱地盤にも向く。液状化で地下から噴き上がる泥も、鍋ぶたのようにブロックする。



TNF工法の特徴を説明する竹内社長

礎」は土に固化剤を混ぜ、ワッフルのような形に造る。建物の荷重を分散して受け止めるため、軟弱地盤にも向く。液状化で地下から噴き上がる泥も、鍋ぶたのようにブロックする。

竹内謹治社長(73)は「ひっくり返した洗面器を湯船に沈めているときに思いついた」と明かす。1990年に設立した前身の会社で「看板となる技術」と考

案し、2004年に特許を得た。5年後をめどに東南アジアでの事業展開も目指し、ベトナムの子会社で現地の技術者の育成を進めている。「地震への備えは日本だけの問題ではない。広島発の耐震建築モデルとして、世界に貢献したい」と意気込む。(政綱宜規)

《会社概要》本社は三原市一町。1990年に同市で創業。94年に現社名、ベトナム、ミャンマーにも子会社を持つ。2019年6月期の売上高は45億1千万円。従業員は61人。

取得した。

耐震に加え、免震工法にも力を入れる。11年の東日本大震災では、TNF工法で建てた仙台市のホームセンターが倒壊こそ免れたものの、揺れが建物内で増幅する「共振」によって陳列棚が倒れ、商品が散乱する被害が出た。

これを教訓に開発したのが、2段に積んだ土のうを互いに滑らせ、揺れを吸収する「ティーバッグス減震工法」。13年に特許を取得した。TNF工法で造った2、3層の基礎の間に土のうを挟むことで、効果を発揮する。

5年後をめどに東南アジアでの事業展開も目指し、ベトナムの子会社で現地の技術者の育成を進めている。「地震への備えは日本だけの問題ではない。広島発の耐震建築モデルとして、世界に貢献したい」と意気込む。(政綱宜規)